

上田市歴史的な文化基本構想

第1章 -1 「上田市歴史的な文化基本構想」策定の目的

上田市に存在する 300 件余の指定等文化財と、未指定の文化財は、上田市の個性と強みとして、積極的に保存・活用・情報発信する必要があります。

このために、各種施策と連携して、上田市における文化財保護のマスタープランとしての役割をもつ「上田市歴史的な文化基本構想」を以下の方針に沿って定める。

- ①文化財保護施策を一貫性を持って進めるための構想とする。
- ②未指定文化財を視野に含め、文化財保護施策の充実を図るための構想とする。
- ③文化財とそれをとりまく環境の一体的な保護を図るための構想とする。
- ④個々の文化財の価値や性質を十分踏まえた構想とする。
- ⑤文化財保護に関する情報を、多くの関係者と共有するための構想とする。
- ⑥住民協働に基づく、文化財を核としたまちづくりの構想とする。

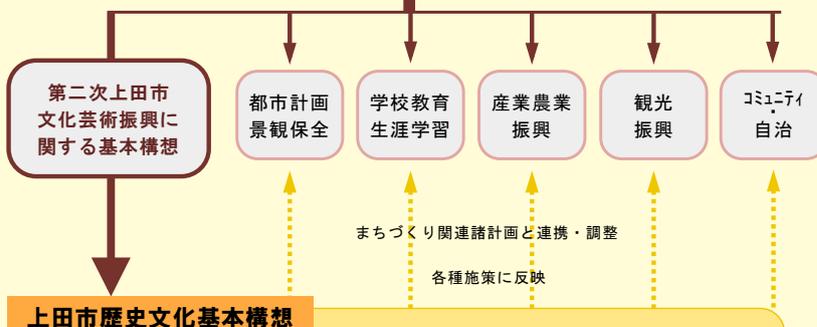


行政上の位置付け

第二次上田市総合計画（計画期間：平成28年度～37年度）

将来都市像：「ひと笑顔あふれ 輝く未来につながる健幸都市」
住んでよし 訪れてよし
子どもすくすく幸せ実感 うえだ

基本理念：市民力、地域力、行政力、それぞれが役割を果たし、協働のもと、まちの魅力と総合力を高めます。



上田市歴史的な文化基本構想

- ・文化財の保存活用を周辺環境も含めた総合的な施策を推進するための、上田市の「文化財保護のマスタープラン」
- ・文化財を知り理解を深める機会をつくること、文化財の保存・活用を市民協働で取り組むことを基本的な考え方に据え、まちづくり、教育、産業振興、観光振興等の関連施策と連携するための指針

第2章 上田市の歴史文化と文化財保護の現状

・上田市の自然的、歴史的特徴

上田市の自然環境は、上田盆地の平野部から美ヶ原高原や四阿山までの山岳まで高低差が1,500 m以上あり、河岸段丘や平野、谷などの多様な地形がある。特に、降水量が少なく、日照時間が長いことは大きな特徴である。

歴史的には、原始以来の遺跡が市内各地に存在し、日本列島で広く交易した跡が見える。古代奈良時代になると信濃国分寺が建立され、そののちの上田市に、仏教文化が繁栄する礎となる。同時に、東山道が整備され、上田市は現代まで交通の要所として発展する。

中世鎌倉時代には幕府の執権北条氏が移り住み、その庇護のもと、仏教文化が栄える。中世末の戦国時代になると真田氏が台頭し、上田城が築城される。近世江戸時代は多様な文化が発展し、後期以降は蚕種製造などの蚕糸業が発展する。近代になると、この蚕糸業が国策として推進され、市内ほぼ全域で行われる。同時に鉄道や高等教育施設などの整備も進み、上田市は大きな発展を迎えた。

・文化財保護の現状と課題

合併以降、文化財管理については各地域教育事務所で業務を分担しているが、文化財保護の専門性の高まりや、少数の職員での対応が困難な状況となりつつある。このことは今後、未指定文化財の調査・保護や、指定文化財等の防災・防犯体制の整備をさらに進めていくうえで大きな課題となっており、行政内部での対応努力とともに、地域住民等と協働した文化財保護が必要となっている。



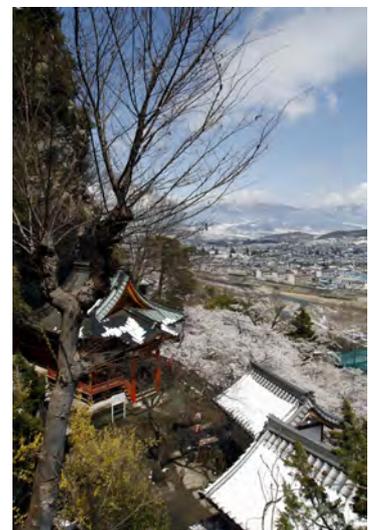
カナタの煙突

第3章 文化財把握の方針

今後の文化財保護や指定の指標とするためにも、社寺建築調査、仏教文化財調査、伝統文化調査、養蚕家屋等調査、石造文化財調査、埋蔵文化財分布詳細調査等を実施する。

第4章 文化財の保存・活用の基本方針

- ・上田市を特徴付ける仏教文化財、中世城館、蚕都上田、農業関連、城下町・街道筋の集落、観光開発分野について調査・研究を進める。
- ・調査、研究成果のアーカイブ機能の充実を図る。
- ・文化財指定の推進と基準の明確化を進める。
- ・文化財の情報発信を進める。
- ・博物館機能の充実を図る。
- ・地域の文化財の保存・活用を地域住民とともに図る。
- ・文化財の防災・防犯体制の整備を進めます。
- ・文化財だけでなく、周辺環境の一体的な保全を進める。
- ・公民館活動等を通じて、地域住民の文化財に対する関心・愛着を育み、守り手の育成を図る。
- ・市役所内部や市民団体、大学等と連携を進め、調査・研究・保存・活用・地域活性化などをより発展させる。



岩屋堂

第5章 関連文化財群の設定

上田市の歴史と文化の特徴を、6つの関連文化財群として設定した。

①信濃国分寺と仏教文化財

上田市には古代、信濃国分寺が建立され、中世鎌倉時代には北条重時が守護所を置いたことなどにより、独鈷山麓や塩田平で「信州の学海」と呼ばれるほど仏教文化が盛んとなり、塩田地域をはじめ、市内各所に多くの寺院が建てられた。それらは、地域住民のよりどころとして現在まで受け継がれているほか、上田市の観光資源として活用されている。



前山寺本堂

②水と信仰の農業開発文化財

上田市は国内でも有数の小雨地帯であり、中世以降、かんがい用水やため池の整備により水耕農業を行ってきた。ため池はこの地を治めた領主だけでなく、地元住民による築造もある。また、雨乞いにまつわる伝説や民話、行事も多く伝えられており、「岳の幟」をはじめ市内各地で受け継がれて、多くの人々が参加し、上田市を特徴付ける習俗となっている。



手洗い池

③真田氏の活躍と城郭文化財

戦国時代に真田の地から身を起こした真田氏は、上田市を拠点に戦国時代の荒波を乗り越え生き残りを図った。その活躍は様々な形で後世に語り継がれ、現在も絶大な人気を誇る。また、古代末から中世にかけての城館などの遺構は現在も市内各地に多く残り、彼らの活躍した時代を偲ばせている。



上田城尼ヶ淵

④城下町と街道筋の文化財

中世、市域の要所に山城が築かれ、塩田城や砥石城など、拠点的な山城には城下町が形成される。近世になると街道が整備され、宿場町や街道筋に集落が発達する。これらの集落の住宅は、江戸時代後期以降、養蚕家屋に発展し、現在の集落と集落景観の核となっている。



砥石城下町

⑤蚕都上田の文化財

江戸時代後期から、上田市では蚕種・養蚕業が盛んで、明治時代になると製糸業も栄え、蚕糸業の一大都市として国内でも有数の規模を誇る。そうしたなかで国内唯一の国立蚕糸専門学校である上田蚕糸専門学校が設立されるなど教育や蚕業研究の拠点が整備された。蚕都上田の繁栄は、上田自由大学や農民美術運動など、現在の生涯学習の基礎となる。



信大繊維学部
旧千曲会館

⑥近代の保養・観光開発の文化財

別所温泉や丸子温泉郷など、市内には歴史ある温泉が多くある。温泉地は、古くは外湯の湯治場として利用され、近代には内湯化が進み、鉄道や道路などの整備とともに温泉リゾート地や保養地として、多くの観光客や文化人を招いてきた。また、菅平高原や美ヶ原高原では、冷涼な気候を活かして、スポーツ合宿や、研究所、避暑地として発展している。



筑波大学
菅平実験施設

第6章 歴史文化保存活用区域

6つの関連文化財群をふまえ、中央、西部、城南、神科豊殿、塩田、川西、丸子、真田、武石の地域別に文化財の保存と活用の方向性を示す。



安楽寺八角三重塔

第7章 文化財保存活用地域計画に関する事項

上田市文化財保存活用地域計画（略称、地域計画）は、上田市歴史文化基本構想に掲げる目標の実現に向けて、具体的な施策の方向性や方策等を定めて国の認定を得ることにより、多岐にわたる文化財の保存・活用の取り組みを、関係する各主体との協働のもとに、計画的に推進するために作成する。

本構想で示した6つの「関連文化財群」と9つの「歴史文化保存活用区域」は、本市の地域計画においても大きな役割を担うものとして位置付ける。また、地域計画に示す文化財の保存・活用に関する措置は、本構想に示す各方針に即すものとし、計画期間中に行う事業や関係法令上の措置など具体的な内容について、実施時期を可能な限り明確にした上で記載する。都市計画行政や景観行政、農林行政、観光行政、地域自治組織等の関連する行政部局との連携のもと、市民や活動団体等との協働体制を構築して、地域に根ざした保存・活用の取り組みを推進する。



祇園祭 お舟の天王山車

第8章 文化財の保存・活用を推進するための体制整備の方針

上田市の歴史・文化を踏まえ、一貫したコンセプトに基づくまちづくりの推進が図られるよう、庁内体制・横断的な組織を構築するとともに、各種審議会に歴史専門家や文化財職員が参加することにより庁内の連携を強化し、歴史文化の視点から市の内部の様々な施策を管理するネットワークと組織構築による一貫したコンセプトに基づくまちづくりの実現をめざす。

また、指定や登録文化財以外にも含む多くの文化財を効果的に管理、活用していくため、9つの地域自治単位に、市民の視点で歴史文化資源を活用しながら地域市民参加で守り生かしていくことを検討する。さらに、地域団体や市内大学等とも連携し、地域産業の活性化と技術の向上、後継者の育成、調査・研究保護を推進する。